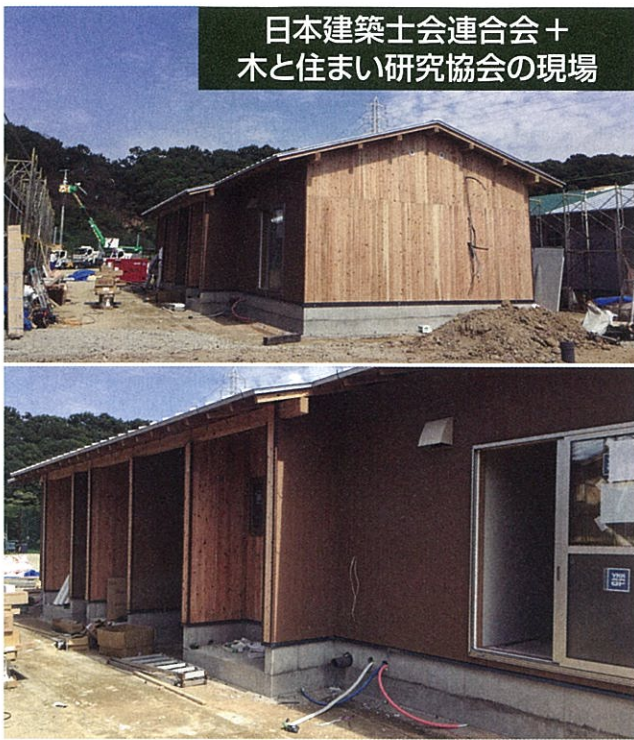


# 多様な仕様の木造仮設が登場



プレハブ建築協会の現場

右は、6月5日から入居が始まったプレハブタイプの甲佐町白旗仮設団地の住戸内(5月31日に撮影)。木造の仮設住宅と同じように腰壁に板を張って畳を敷く。下は玄関側。木製の防風袖壁を設けるほか、スロープやベンチにも木を使用している。基礎は木杭。プレハブ建築協会会員の大和ハウス工業が施工した  
(写真:プレハブ建築協会)



日本建築士会連合会 + 木と住まい研究協会の現場

下段は、宇城市当尾仮設団地(仮称)で施工している木造仮設住宅の玄関側の外観(6月3日に撮影)。軒裏をあらわしとして防風袖壁にも板を張っている。サイディングも木目模様を採用。上段は妻面。板を全体に張っていることが特徴だ。熊本建築士会会員の高橋建設(宇城市)が施工した  
(写真:熊本建築士会)



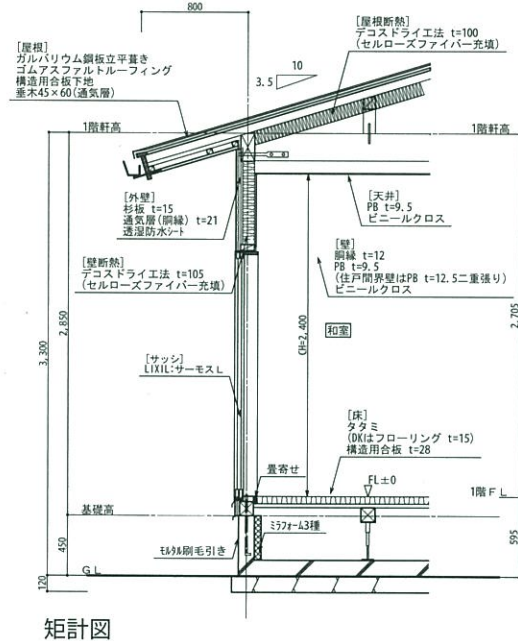
熊本県優良住宅協会の現場

上は、西原村小森団地(仮称)の現場で、熊本県優良住宅協会の会員が施工している木造仮設住宅の外観(6月4日に撮影)。熊本県が雨の多い地域であることを踏まえて軒の出を80cmとする工夫が、全ての木造仮設住宅の標準仕様となった。6月中旬の完成を目指す。左上は、住戸内から見たコンクリートのベタ基礎の底板と中基礎の立ち上がり(5月21日に撮影)  
(写真:上は新産住拓、左上は本誌)



全国木造建設事業協会の現場

山都町原仮設団地(仮称)の木造仮設住宅の現場で、断熱材のセルローズファイバーを施工した状態(6月4日に撮影)。全国木造建設事業協会の関連団体であるKKNに所属するエバーフィールド(熊本市)と、地元の宮田建設と尾上建設(ともに山都町)が、6棟を手分けして施工している。6月中旬の完成を目指す。左は、KKNが標準とする断面詳細図。断熱仕様に工夫を持たせている  
(写真と資料:熊本工務店ネットワーク)



矩計図

県と災害協定を結ぶ3グループの各会員企業が当たっている。全国木造建設事業協会(全木協)、日本建築士会連合会+木と住まい研究協会(建築士会+木の住まい)、熊本県優良住宅協会(優良住宅協会)だ。

**軒の出を長く**

県が建てる木造の仮設住宅は、戸当たり約60万円という建設費や、6坪〜12坪という住戸面積はこれまでの仮設住宅と変わらない。その一方で、県独自の特徴もある。

一番の特徴はコンクリート基礎を採用していることだ。「余震が続いているので、耐震性を確保するため。県としても初の取り組みだ」と折田さんは話す。コンクリート基礎の場合工期が1週間弱延びるので、短工期を望む市町村に対しては、木や鉄骨杭を基礎に採用したプレハブの仮設住宅を勧めている。

このほか、雨が多い地域なので軒の出を約80cmと長くする、軸組材を県産材にする、床仕上げ材を畳と板張りにするなども特徴だ。

これらは、優良住宅協会が2012年に建てた熊本広域大被害用の木造仮設住宅に取り入れた工夫だ。同協会の仕様の一部を標準化した。

標準仕様に加え、全木協は壁などの断熱材に木質繊維系のセルローズファイバーを採用。さらに、押し出し法ポリスチレンフォーム(XPS)の断熱材を使い基礎断熱とした。外皮性能や気密性などにも配慮し、ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー住宅)として仕立て直すことも可能だ。

設計・施工の実務は、地元を拠点とする工務店の集まりである熊本工務店ネットワーク(KKN)が主に担当している。全木協の関連団体JBN(全国工務店協会)に所属。KKNの会長で、地元工務店エバーフィールドの久原英司社長は「地元の中小工務店が持つノウハウや協力会社の力を集結した」と話す。

建築士会+木の住まいは、外観の妻面と防風袖壁、室内の腰壁に木板を張るなど、木板を多用する設計とした。木板の防風袖壁や室内の木板腰壁は、県の要望を受けて、プレハブ建築協会が手掛ける仮設住宅にも標準採用されている。

6月4日時点では、全木協が188戸、優良住宅協会が50戸、建築士会+木の住まいが60戸、それぞれ木造仮設住宅を手掛けている。優良住宅協会以外の2グループは熊本県内で初めて仮設住宅に取り組み。(荒川尚美)

「木造の応急仮設住宅(仮設住宅)がほしい」。熊本地震で被災した熊本県内の市町村の担当者から要望を受けて、木造仮設住宅の建設が急ピッチで進んでいる。

6月4日までに着工した仮設住宅は2564戸。そのうち、298戸(12%)が木造で、2266戸(88%)がプレハブタイプだ。プレハブ住宅は入居も始まった。県は今後も新たに仮設住宅を建設する予定で、木造のタイプもさらに増える見込みだ。

木造を望む声が市町村から多く上がっている理由について、熊本県土木部住宅課課長補佐の折田義浩さんはこう説明する。「もともと木造住宅に住んでいた人が多かったため、仮設住宅も木造にすれば落ち着けるだろうと考えたのではない」

木造の採用は住宅にとどまらない。仮設住宅の団地内に設ける集会所と談話室についても、木造で整備することが決まった。

木造の仮設住宅と集会所の建設は、

家づくりの実務情報

# 日経ホームビルダー 2016 7

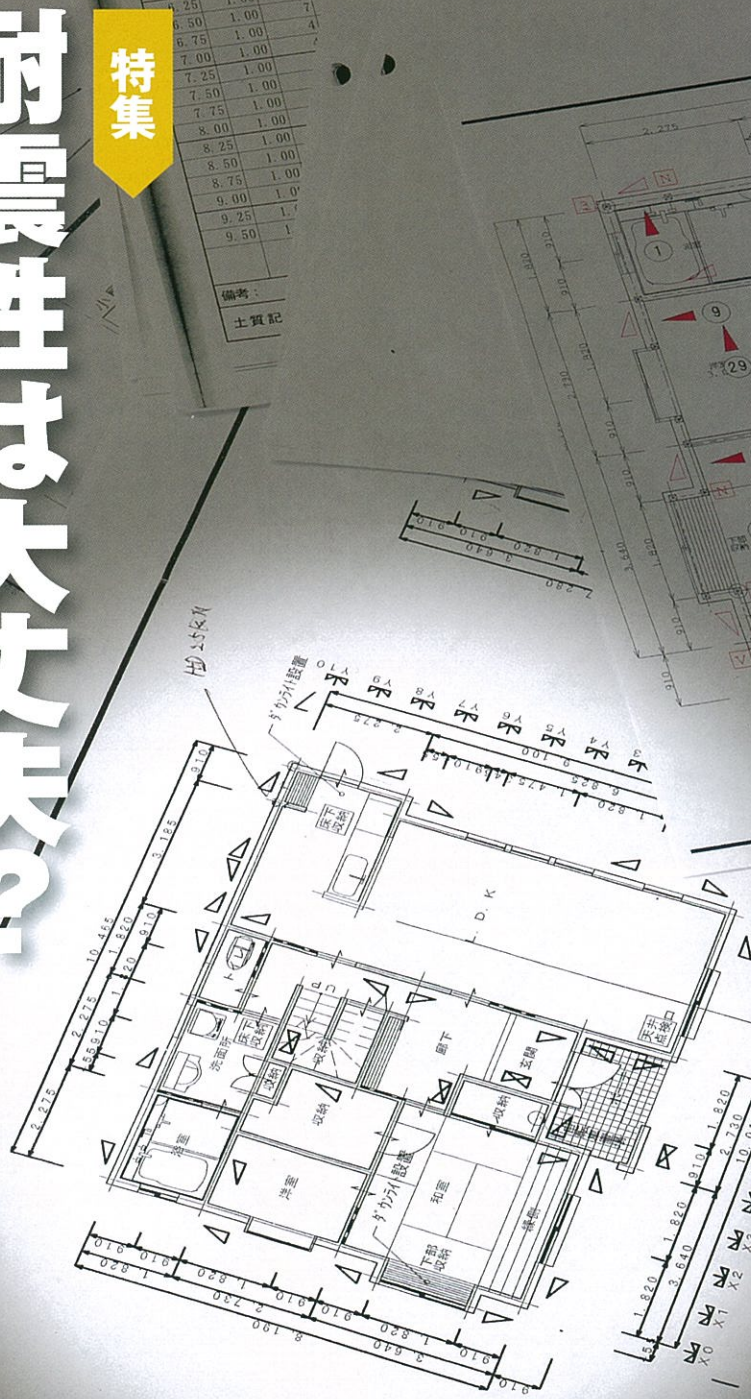
続報

熊本地震

# 「等級2」倒壊の真相 図面を徹底検証

特集

# 「81年〜00年」住宅 耐震性は大丈夫?



深層 増税延期で次の一手は、43社業績

深層 LIXIL 新社長が海外戦略を転換

邸新築工事